

留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 石原 舞空（オーストラリア）

私は英語力の向上と異文化理解を深めるとともに、幼い頃から続けてきたチアリーディングを本場である海外で経験するという目的で、オーストラリアのメルボルンへ留学しました。幼い頃から英会話を学んできましたが、実際に学校の授業以外で英語を使う機会は少なく、実践的な英語を身に付け、大好きなチアリーディングを通して、憧れの方々やチーム、そして同じ趣味を持つ仲間とコミュニケーションを取りたいと考え、この留学を決意しました。また、高校生の未成年であるが、1人で海外に出て生活することで、自分の視野を広げ新しい視点から世界や日本を見てみたいという思いもありました。

オーストラリアでは、現地の高校に通いながら1週間のうち、半分以上チアリーディングのジムに通い、ホストファミリーと生活しました。授業では、ディスカッションやグループワーク、個人でのプレゼンテーションが中心で、自分の意見を求められる場面が多くありました。留学当初は自分の考えを英語でうまく表現することができず、英語を話すことに強い不安を感じていました。それでも間違いを恐れずに現地の人たちと話すことが大切だと考え、自分から積極的に発言をするように努力しました。現地の学校には日本人が私以外に誰もおらず、英語を使うことでしかコミュニケーションのとれない環境に身を置き、学ぶことができたからこそ、自分の英語力を大きく向上させることができたと感じています。また、チアリーディングはチーム競技ということもあり、チーム全員で大会に向けて演技を作る必要があります。そのため、個々が意見を出し合い、仲間とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。私も自分の英語力の向上に向け、チームメイトとたくさん交流しました。その結果、自分の考えを恐れずに伝えられるようになり、また聞き直すことなく会話が聞き取れるようになりました。チアリーディングの仲間たちと長い時間を過ごしたことで、家族のように身近な存在になりました。

また文化の違いにも多くの驚きがありました。例えば、オーストラリアでは、初対面の人であっても気軽に会話をする習慣があり、バスの乗客や店員とも自然にコミュニケーションをとることが印象的でした。日本ではあまり見られない光景であり、最初は戸惑いもありましたが、自分から話しかけたり、会話をしたりすることで、相手との距離が縮まり、人とのつながりの大切さを実感しました。

一方で困難にも多く直面しました。特に最初のホームステイ先では、ファミリーと十分に意思の疎通が図れず、結果として暖かく迎え入れていただけませんでした。そのため、自分の居場所を感じることができず、1ヶ月半ほど、孤独な日々を過ごしました。もう耐えられないと思ったときに、エージェントのアドバイザーや学校の先生に自ら英語でヘルプを求め、新しいホームステイに変えていただきました。はっきりと自分の意見を述べられたことで、自分のメンタルも英語力も向上しました。この経験を通して、他者に自分の感情を汲み取ってもらうまで待つことも大切ではあるが、ときにははっきりと自分の意見を伝えることの大切さを学びました。

困ったときにいつも手を差し伸べてくれたチアリーディングのコーチや、いつも近くでサポー

トしてくれた憧れの先輩、学校の仲間、そしてホストファミリーの方々には心から感謝しています。現地の観光地やショッピング、ランチやディナーに連れて行ってくださり、学校の教室だけでは学べない多くのことを体験しました。異なる文化や価値観に触れることで、自分の考えが柔軟になり、物事を多角的に見る力が付いたと感じています。

ずっと憧れていた場所で、憧れの選手に混ざって大好きなチアリーディングを学べたこと、国を代表する選手たちにたくさんのスキルを教えていただいたこと、大会で好成績を残しオーストラリアのビクトリア州ナンバーワンである State Champion に選ばれたこと、チアリーディングというかけがえのないものを現地で英語を使い学べたこと、すべてがか充実した楽しい時間でした。

この留学を通して、語学力の向上だけでなく、自ら発言し行動する力、異文化を受け入れる姿勢、チアリーディングのスキルはもちろんのこと、一生の仲間や先輩、コーチに出会うことができました。今後もこの経験を活かし、さらに英語力を伸ばすとともに、国際的な視野を持って様々なことに挑戦をしていきたいです。